

継続は力なり!



今年の夏も なんぶっ子夏休み塾 が大好評でした

教育委員会では、町内小中学校の夏季休業中に「なんぶっ子夏休み塾」を開催しました。今年で三年目の取り組みとなります。

自分で考えるチカラを育てる

参加している小中学生たちは、それぞれに自分ですべきことを考えて取り組んだり、わからないことをそのままにせず、学習ボランティアさんに聞いて解決したりしていました。「なんぶっ子夏休み塾」で見られた小中学生の姿は、塾に通っている子どもたちに限らず、どの子どもたちも「自立」に向かって着実に準備をしている姿であると捉えています。

心も身体も大きく成長する二学期に向けて

学校生活の中で、二学期は新しい学年・学級に慣れ、これから自分自身の力を発揮していく時期でもあり、また、一学期の自分を振り返り、直していかうとする時期でもあります。

大人（思春期）に向かっていく子どもたちは、「自分探し」を繰り返していきます。自分はどういう人間なのか、また、将来どのような方向に向かっていけばよいのだろうかなどを考えます。時には、友だちと自分を比べ、劣等感を持ったたり、あるいは「自分もあのような人になりたい」と思ったりすることも多いと思います。

家庭での会話は子どもにとって心の支えです

自分を「創っていく」ために、また、自分の持っている可能性を伸ばすために、自信(自尊心、自己愛、誇り)を持つことは重要な鍵です。これらの自信を大きくしていくための一つに「家庭での会話」があります。

それぞれの家庭での会話の様子を振り返り、子どもも大人も元気がでる会話が広がっていく南部町をめざしたいと思えます。

南部町教育委員会事務局

総務・学校教育課長 野口高幸

「いつも優しく見守っているおばあさんの気持ちがひしひしと伝わってきました。(書的小林太治さん)」

子どもは、親や学校だけで育てるものではありません。わが町では、会見小学校のGTA(祖父母と先生の会)やコミュニティスクール(地域協働学校)、地域振興協議会のような存在が、子どもの育ちに一役買ってくれています。地域の力に感謝しつつ、子育てもたまには「頑張らなくていいからね。」

何事も塩梅あんばいが肝心です。

今月の三行詩

「頑張らなくていいからね。」
その一言で頑張れたよ、
ありがとう、ばあちゃん

出典 「たのしい子育て全国キャンペーン」三行詩優秀作品より
(文部科学省・(社)日本PTA全国協議会主催)
書 南部町在住 小林太治